R18
Contents include
魔術の素養が高い弟と
Younger brother who is highly skilled in magic
落ちこぼれの兄
Older brother of the dropout
もうの
Mouno

R18
Contents include

魔術の素養が高い弟と落ちこぼれの兄

Younger brother who is highly talented in magic and older brother of the dropout

もうの

Mouno

Contents

第一話・・・5

第二話・・・15

第三話・・・25

第四話・・・35

第五話・・・47

第六話・・・61

第七話・・・77

第八話・・・83

第九話・・・115

あとがき・・・132

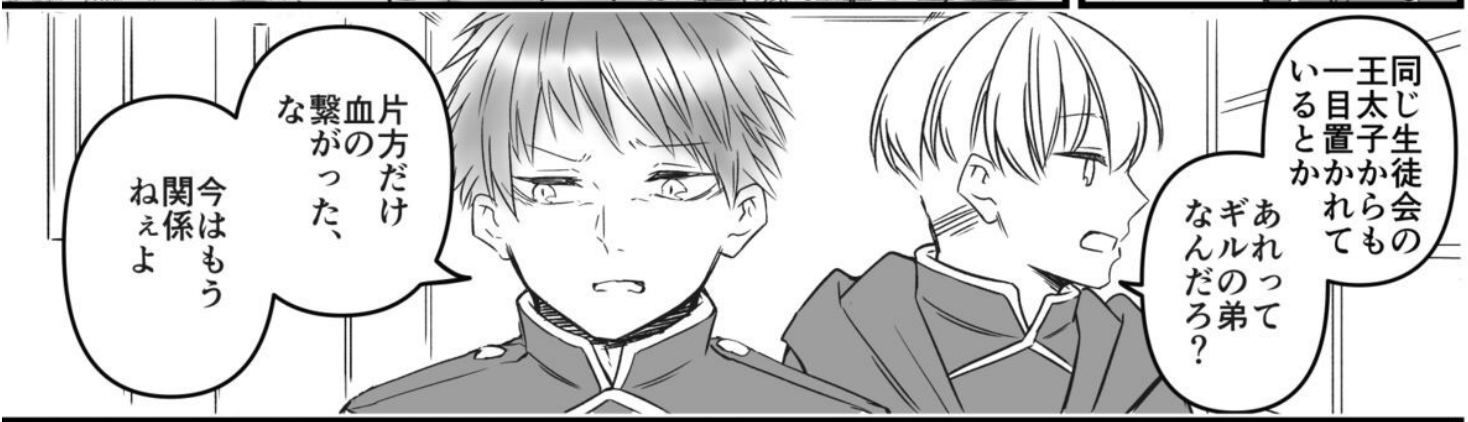
魔術の素養が高い弟と落ちこぼれの兄の話

第一話

弟より劣った兄は
あまりにも呆気なく家督を奪われ

そして

笑ってしまう程落ちぶれた
すごいなあ
なんだあの魔力
やっぱり生徒会のエリート様は違うねえ


同じ生徒会の王太子からも一目置かれているとかあれってギルの弟なんだろ？
片方だけ血の繋がった、な
今はもう関係ねぇよ

この国では魔力の強さが権力に直結する
たとえ弟でも妾の子でも
魔力が強ければそちらが家督を継ぐ

思い描いていた
未来は
遥か彼方に

俺は将来
この家を継いで
領地を豊かに
するんだ！

お前も
手伝って
くれよ！

うんっ

兄さまのこと
全力で
支えるから！

―なんて
約束

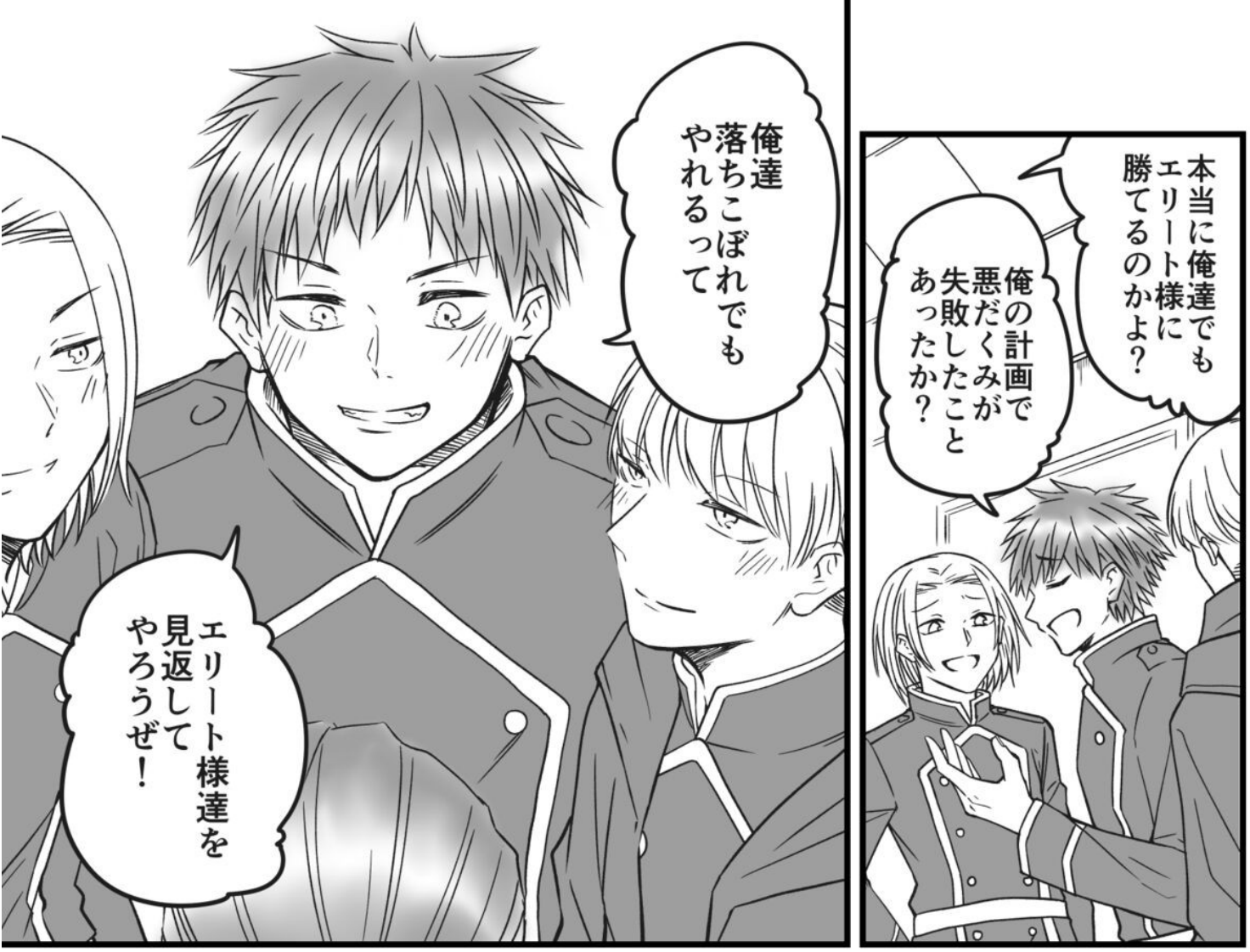
もう
覚えてねえ
だろうな…

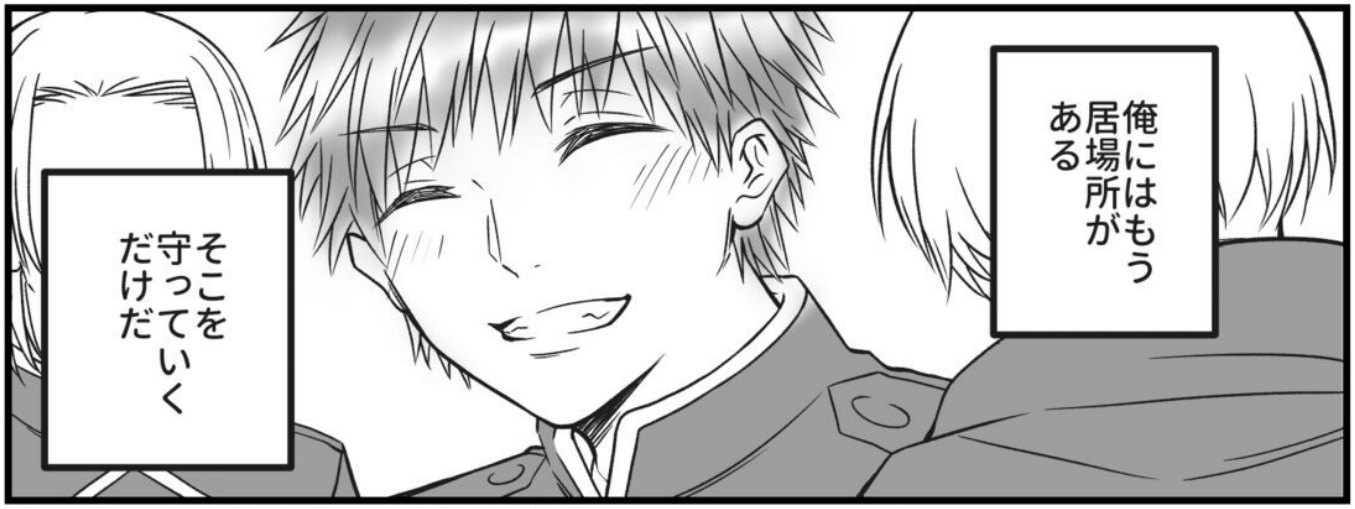
だけど
もう大丈夫

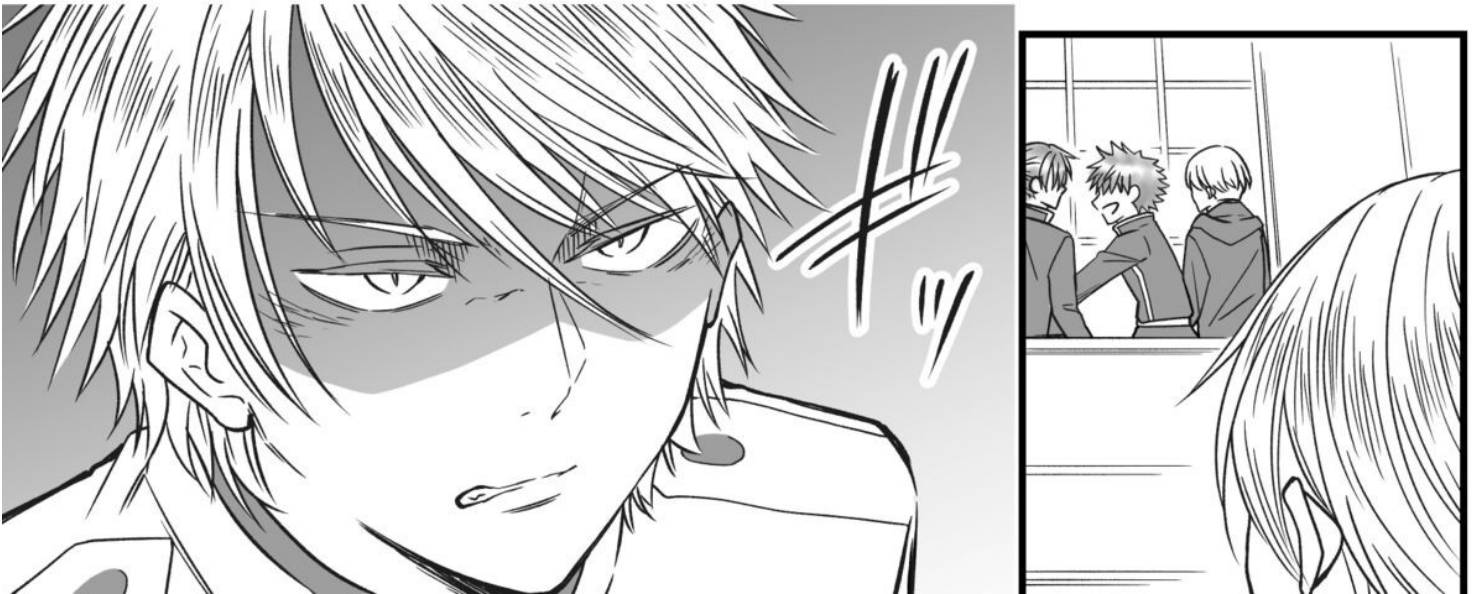
いたいた

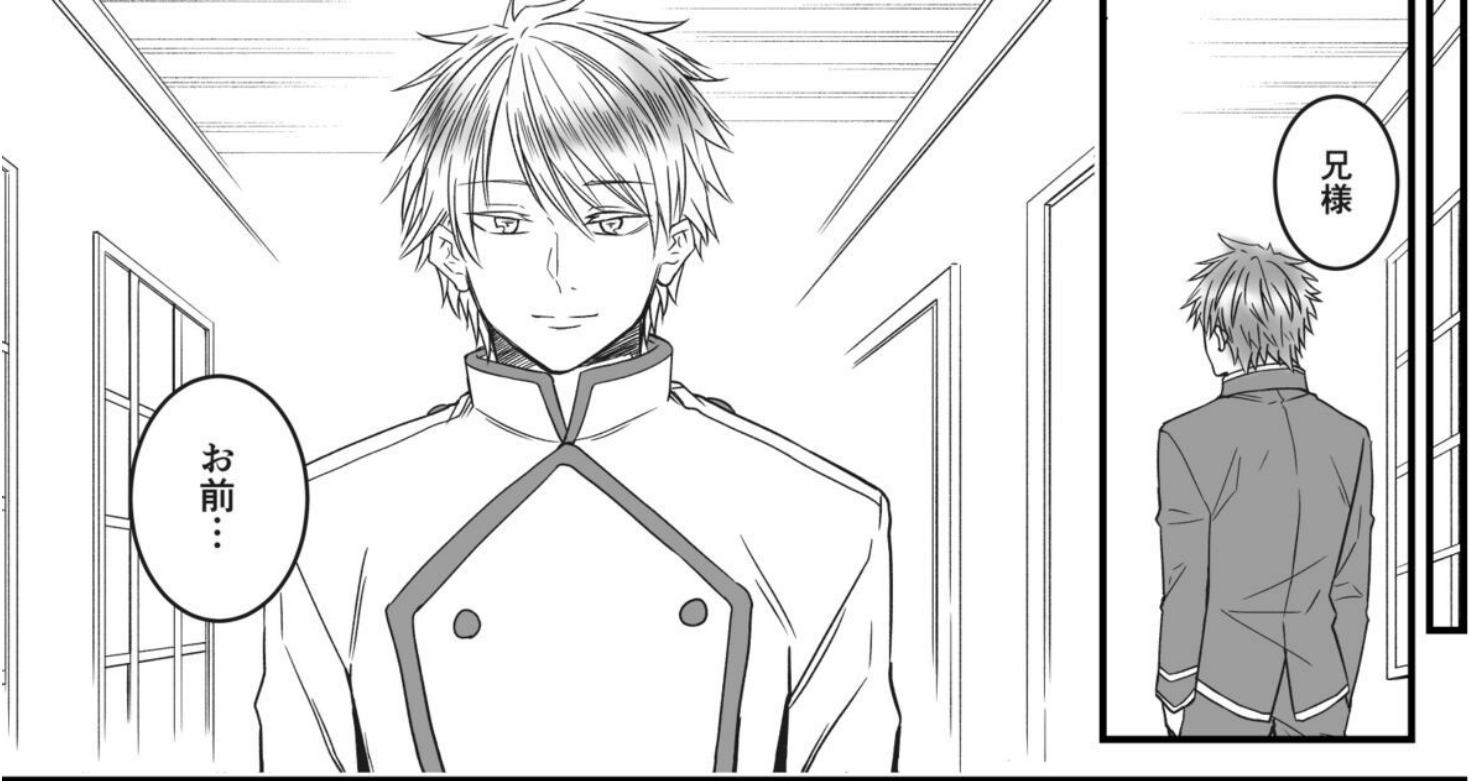
次の
合同訓練の
計画
立てようぜ！

俺には
こいつらが
いるから

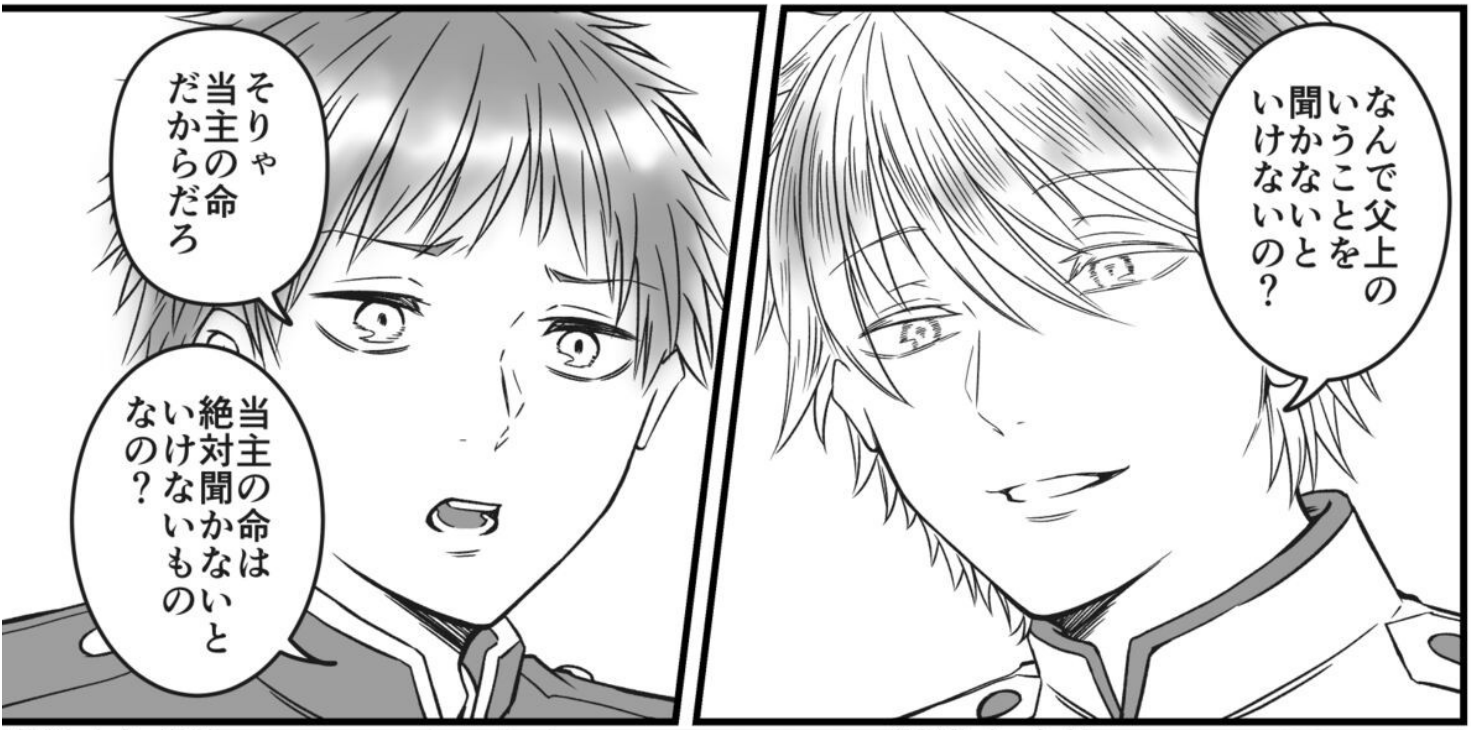

本当に俺達でもエリート様に勝てるのかよ？
俺の計画で悪だくみが失敗したことあったか？
俺達落ちこぼれでもやれるって
エリート様達を見返してやろうぜ！


俺にはもう居場所がある
そこを守っていくだけだ



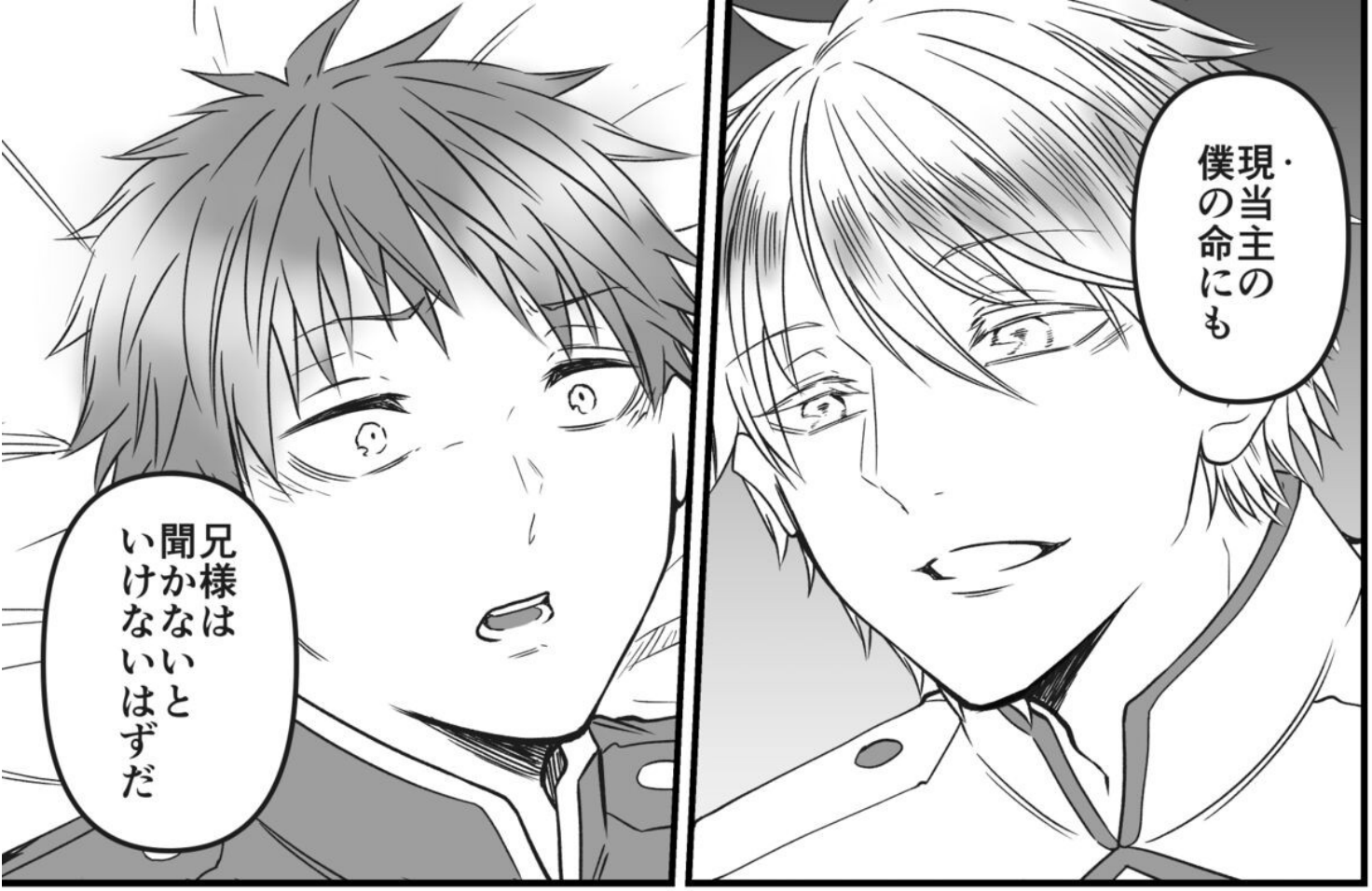

兄様
お前…

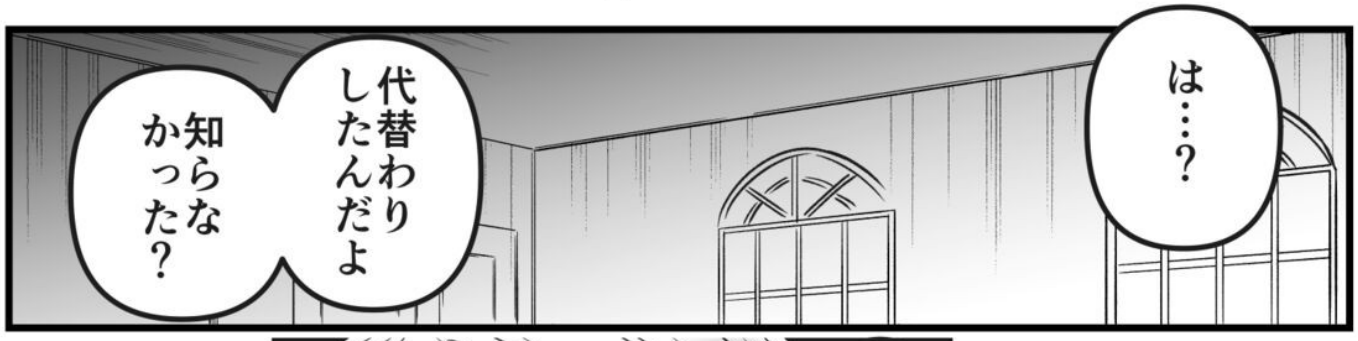
俺に話かけんじゃねえよ
なぜ？
親父に言われてるだろ、お前も


なんで父上のいうことを聞かないといけないの？
そりゃ当主の命だからだろ
当主の命は絶対聞かないといけないものなの？

—ああ
当主の命は絶対だ

ちょっ
何すんだよ！
どこに行く気だ!!
当主の命令は絶対…
そうだよね？
何だコイツ雰囲気が…
—なら


現当主の僕の命にも
兄様は聞かないといけないはずだ


は…？
代替わりしたんだよ知らなかった？

代替わりってまだそんな歳じゃっ…
だって
僕と兄様の仲を引き裂こうとしたんだもの
当然の報いだよね
だから兄様

誰とも話すな
誰とも笑いかけるな
つるんでいる奴らと縁を切れ
僕のそばにいろ
僕だけに笑いかけろ
未来永劫僕から離れることを許さない

命令…
守れるよね…？

あなたはもう僕のモノだ
ギルバート

ギルバート・レッドグレイヴ
Gilbert Redgrave

レッドグレイヴ侯爵家嫡男。
しかし魔力量が少なく、当主の座を弟に奪われる。
10歳の頃に全寮制の学園へ入れられて以来
家に帰っていない。
弟に尋常でないほど執着されており
服従の呪文をかけられた。

魔術の素養が高い弟と落ちこぼれの兄

第二話

母親が嫌いだ

僕を金で売ったから

父親が嫌いだ

僕をモノとして扱うから

レオンハルト！

兄様だけが僕を可愛がってくれた

でもそれでよかった

それがずっと続くと思ってた

なのに

兄様が魔力を発現されたぞ！

ギルバート様より魔力が強い…！

あの日全て壊した

あの日以降
兄様と
会えなく
なった
どうやら
全寮制の学園に
入学したらしい
代わりに僕は
領主としての
勉強を強要された
兄様
どうして…
僕こんなの
やりたくない
よ…

いやっ
兄様は
こんなこと
言わない！
それに
約束した
じゃないか
僕たちで
領地を
より良く
するんだって！

そうだ！
兄様に
手紙を
送ろう！
そうしたら
僕も
頑張れる！
兄様も
きっと―…
―だけど

手紙は一度も返ってこなかった

—そして
入学式の日
兄様を
見つけた
兄様！
パァッ
よかった
無事だった！
会えて
嬉しい！
話したい事が
沢山あるんだ！
そして
一緒に—…

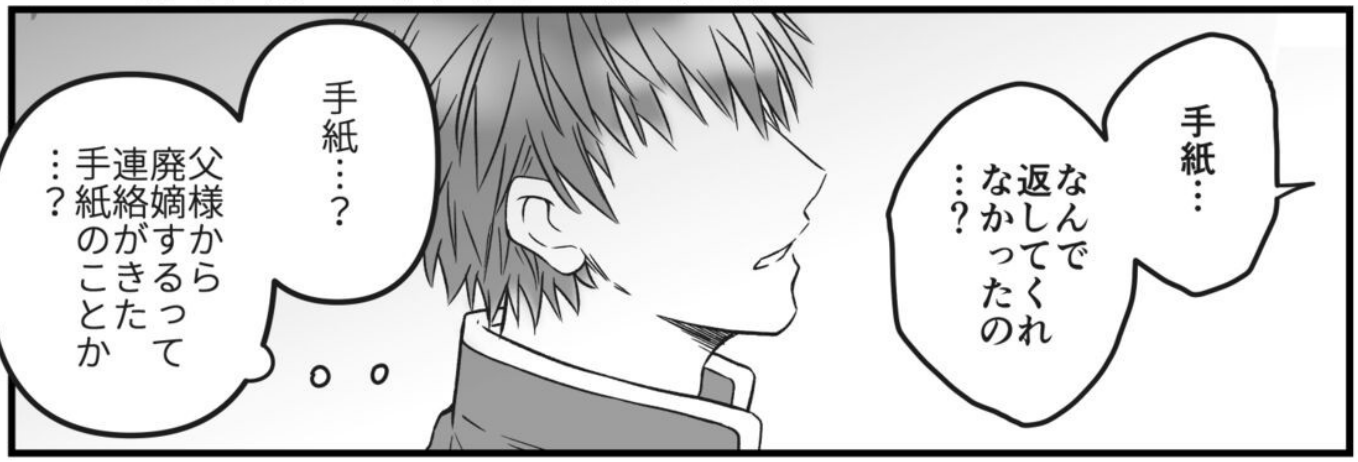
…俺に話しかけんな

オイオイ
それはひどいんじゃねーの？
弟くんなんだろー？
ハァ…
俺はもうあの家とは関係ねーし

廃嫡されたってこと
お前ももう俺に関わるな
父様に睨まれるぞ

関係ないってどういうこと…？
…父様からお前も聞いてるだろ

じゃーな
そんなの聞いてない!!
領地のことは!?
僕たちの夢はどうなるの!?
それにそれにっ
手紙!!


手紙…
なんで返してくれなかったの…?
手紙…?
父様から廃嫡するって連絡がきた手紙のことか…?

そんなの
燃やして捨てた
—あとから

僕が書いた
手紙は

父親が全て
捨てていて
届いていなかった
ことを知ったが

そのころには
僕はもう
壊れてしまって
いた

似合っているよ兄様
これは服従の呪文
これがある限り僕には逆らえない
これからはずっと一緒だよ
兄様

レオンハルト・レッドグレイヴ

Leonhard Redgrave

レッドグレイヴ侯爵家現当主。
妾の子で6歳の時にレッドグレイヴ家の養子となる。
膨大な魔力を保持しており、そのせいで兄から
次期当主の座を奪った。
兄に並々ならぬ執着を持っており服従の呪文をかけた。

魔術の素養が高い弟と落ちこぼれの兄
第三話

チュン…チュン…
ん…
ここは―…
起きた？
兄様
レオンハルト…!?
そうだ…
俺っ…
お前に―…

早く逃げないと!!
動くな
っ…!
やっぱり正解だったな
魔法をかけておいて
魔法…?

これは
服従の呪文
もう兄様は
僕から
離れられないよ

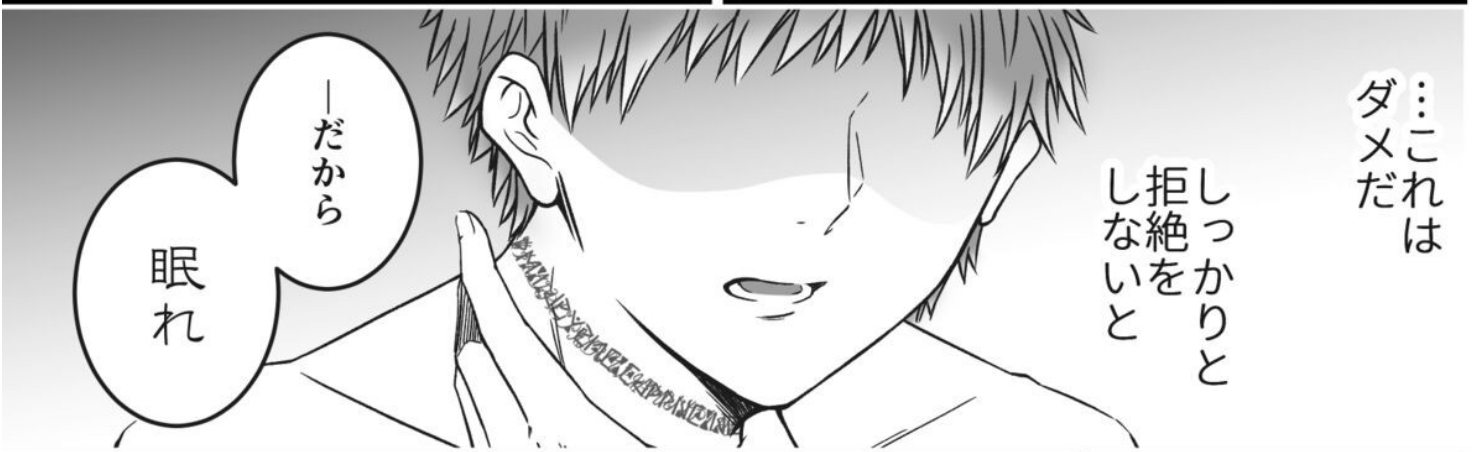
禁忌魔法じゃ
ねえか…!
なんで
んなことっ
…

だって
兄様が傍に
いないから

ずっと
寂しかった
兄様が
離れてから
連絡も
来なくて
何を
しているかも
分からなくて
それはっ…

なのにあいつらと
楽しそうに
しているだなんて
許せない

あなたは
もう
僕だけのものだ
愛している
兄様


…これは
ダメだ
しっかりと
拒絶を
しないと
—だから
眠れ

なっ…
にを…
意識が
遠のく…
次起きた時は
僕たちの領地
だよ
おやすみ
兄様

ぼっ

ここは…
屋敷の…
俺の部屋…？

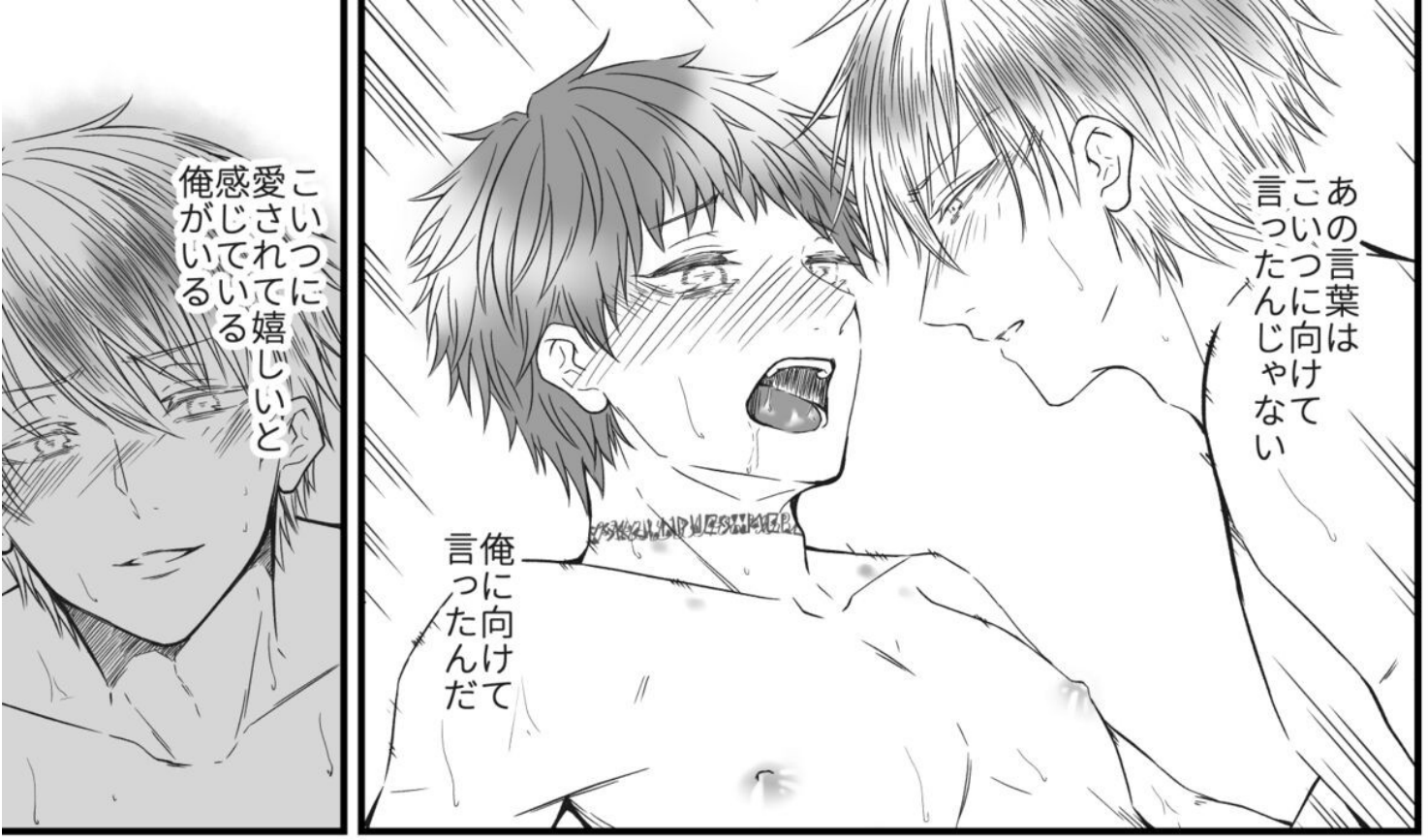
本当に戻ってきたのか…
どう？
懐かしの我が家は
気付いた？

俺の部屋残っていたのか
僕が父に頼み込んだからね
…なあ父様はどうなったんだ…？
それに領地の運営は？
―兄様は
何もしなくていい
何も知らなくていい
僕の傍にいてくれるだけでいいんだ
だから離れないでね？
〝命令〟だよ？
―それから

レオンハルトに
求められるだけの
日々が続いた
人と
話すことも
部屋の外へ
出ることも
叶わずに
…こんなこと
もうやめろ…

お前は
家族愛から
来る気持ちを
誤解している
んだ
だから…
この気持ちが
どこから
来るのか
関係ない

今
あなたを
恋し
欲し
愛しているのは
紛れもない
事実だ
さあ
愛し合おう―?
…分かっていた
こいつの
気持ちは
本物だって


あの言葉は
こいつに向けて
言ったんじゃない
俺に向けて
言ったんだ
こいつに
愛されて嬉しいと
感じている
俺がいる

このままじゃ
俺は―…

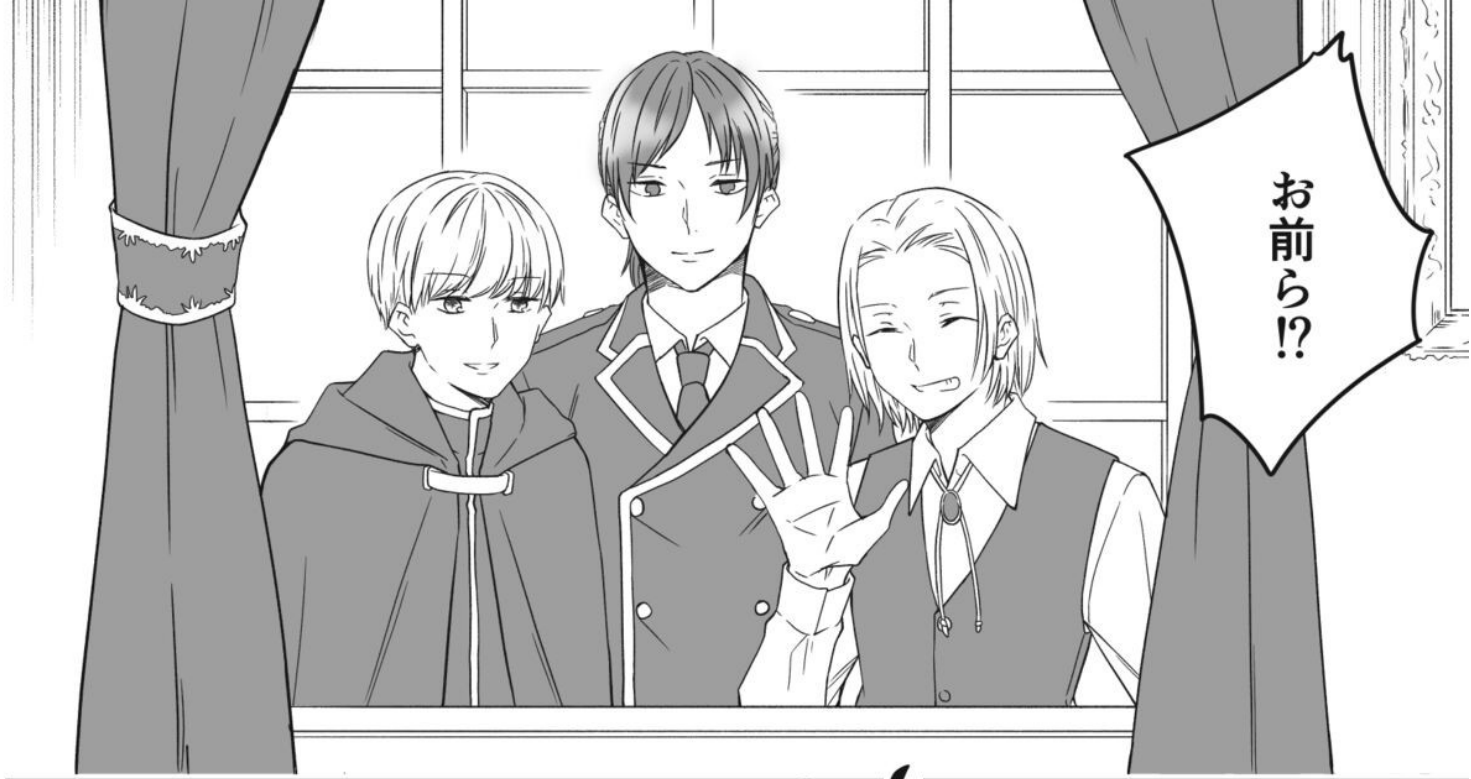
コンコン
…何の
音だ…？
コンコンコンコン
お前ら!?

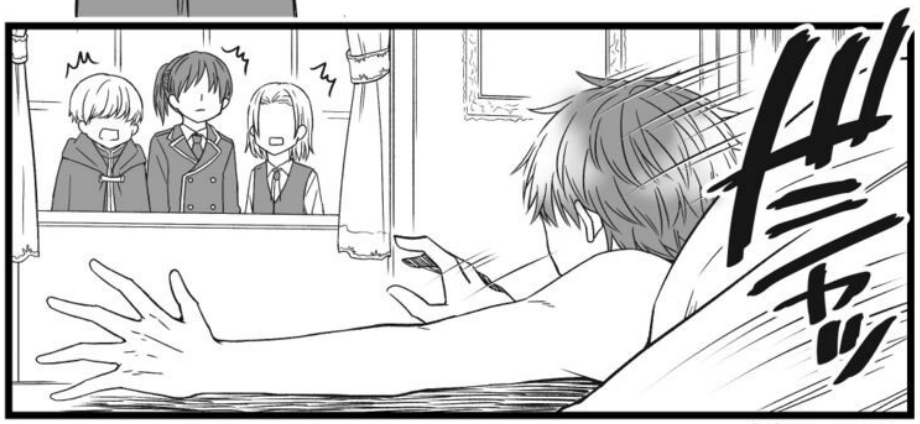
ヒスイ
Hisui

極東で暮らしている民族の次期頭領。
社会勉強のため16歳の時学園に入学したが
高位貴族とそりが合わず一人で行動していた。
のちに落ちこぼれと言われていたギルバートと
仲良くなる。
意外とすぐに手が出る。

魔術の素養が高い弟と落ちこぼれの兄

第四話


お前ら!?


ハニャッ

なんで
ここに…
ぐらっ

ギル
大丈夫?
思ったより
元気じゃ
なさそうだな
お前ら
どうした
んだよ!?

最近寝て
ばっかだった
からな…
ここまで
体力が
落ちてる
とは…
ヨロ…

イッ

お前がいなくなってから俺ら随分探したんだぞ？
ようやく弟君見つけたかと思ったら兄弟そろって領地に帰るとか言い出して…
あれだけ戻る気なかったのにおかしいなと思ってさ

こうして様子を見に来たってわけ！
お前ら…

しっかし何だココ
護衛いるわ魔法張り巡らされているわで
ノエの隠匿魔法がなかったらここまで来れなかったぞ
ここにいちゃいけねえ
早く逃げよう
それにお前…
相手は弟君か？
ギュ…

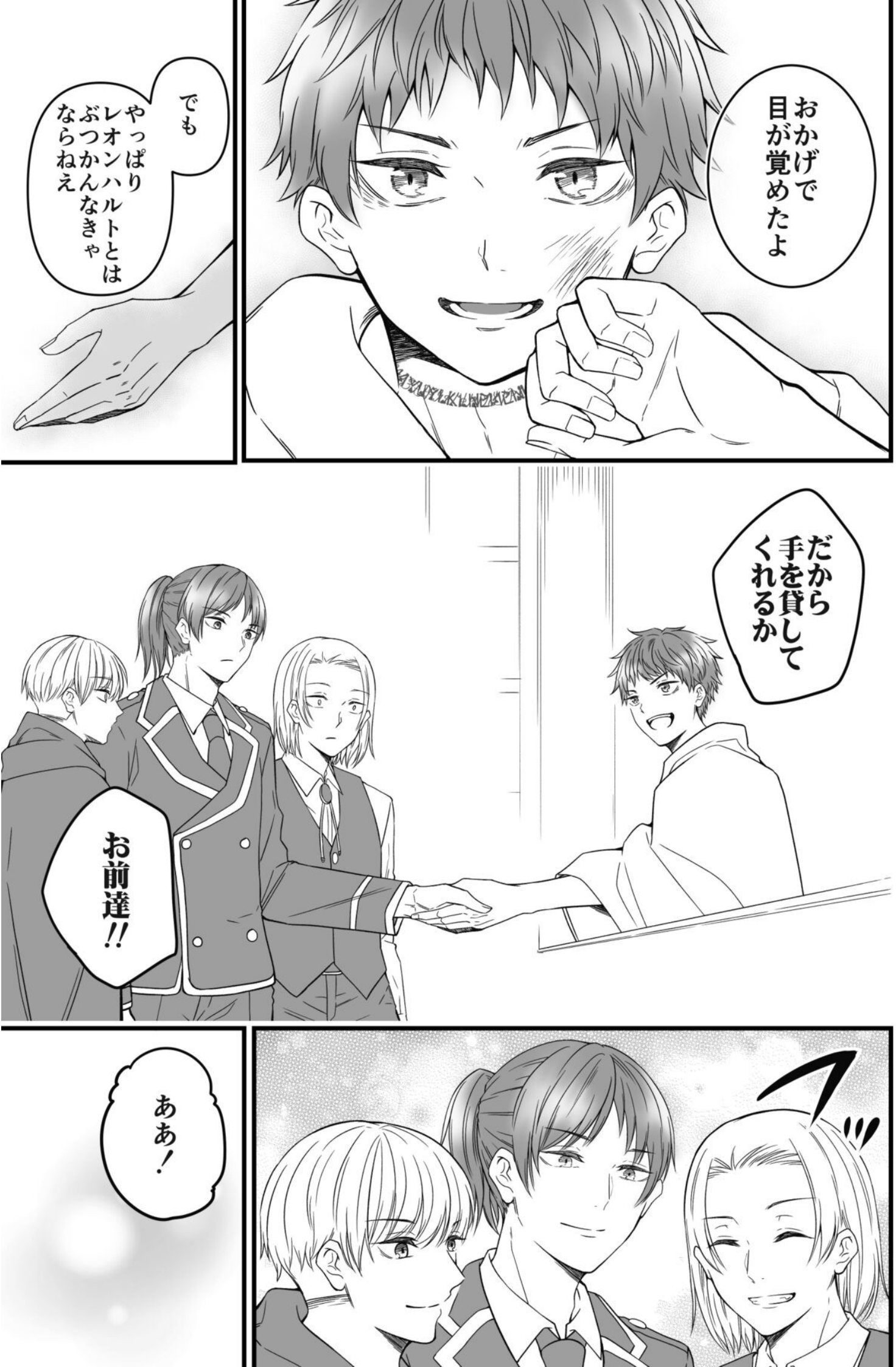
あー…
悪い
俺
ここに
いるわ…

このまま
ここにいると
死ぬよ!?
ハァ!?
正気かよ!?

でも
このまま
レオンハルトの
傍を離れる事は
できない
あいつ
あんな奴じゃ
ないんだよ
本当は
もっと
優しい奴
なんだ
兄貴である
俺がっ…
俺が
レオンハルトを
なんとか
しないと—…

目が覚めたか
ギルバート
状況把握能力だけが取り柄だったお前が
ヒスイ…
自分の状況さえ見えていないようだ
そんな体で何ができる
そんな心で何を説得できる！

いいか!!
これは戦略的一時撤退だ!!
態勢を整え
正常な状態でしっかり考えろ
それでもやらねばならん事があるのならば
その時は俺達も一緒に行く
俺達がお前の手足となろう
…なんて頼もしい仲間たちなんだ…


おかげで
目が覚めたよ
でも
やっぱり
レオンハルトとは
ぶつかんなきゃ
ならねえ
だから
手を貸して
くれるか
お前達!!
ああ!

じゃあこれからどうするかだけどー…
あーそれなんだけどさ
つーかいい加減服着ろよ
ハイ
おキース悪いな
俺服従の呪文かけられているんだ
これがある限りレオンハルトの傍から離れられない
うへぇ…
禁忌呪文じゃんかよ…
…僕なんとかできるかも
本当かノエ！
ノエん家そういうの研究してんだっけか
でも服従の呪文を解くには時間がかかるんだ
だから“身代わり”を作って時間を稼ぐ
身代わり？
ゴーレム（コレ）を使ってね

土の精霊よ
その身を形作れ！
ウウウ…

すげっ
俺そっくりだな！
ギルにかけられている魔法ごと複製したからね
ギル本体が離れても身代わりがいる限り服従の呪文は発動しないよ

にしてもちょっとキレイすぎねぇ？
もうちょっとこう…
やめろキース！
オイそろそろ行くぞ
長居は無用だ

それで
これからどうするんだ？
屋敷の外に馬車を用意してある
それを使って俺の故郷に逃げる予定だ
逃げている時に服従の呪文を解くつもりだよ
悪いなノエ
服従の呪文が解けたらレオンハルトともー…
ゲホッ ゲホゲホ
な…んだコレッ… 息がっ…
ギル！
そんなっ…
服従の呪文が発動してる…!?

兄様を
奪ったのは
誰だ
ヨシャリ…

ゴロゴロ
嘘だろ
天候がっ…
ゴロゴロ…
もう
天変地異
だよ…！

ヒュッ
貴様らの
仕業だな？

兄様を
返して
もらおう
か

ノエ・ウィザース
Noe Withers

ウィザース伯爵家の次男。
魔術を探求している一族であり様々な魔術を知っている。
禁忌魔術なども研究している為、他の貴族からは嫌煙されていた。
ギルバートとは16歳の時に友達になる。

キース・エクルストン
Keith Eccleston

王国で有力な商会であるエクルストン商会の三男。
ギルバートとは学園初等部からの悪友で先生たちを困らせてきた。
最近男爵の爵位をお金で買った。

魔術の素養が高い弟と落ちこぼれの兄

第五話

そんなっ…
身代わりを用意したのになんでっ…

身代わり…？
パラ…
ああ
あの人形のこと？

貴様らは兄様を誑かしただけでなく
偽物まで作った大罪人だ
僕が兄様を間違えるわけないだろう

全員死ね
オォッ
風の精霊よ
この身を守れ！
ノエ!!
このまま簡単に逃がしてはくれなさそうだな…！
このままだと俺のせいで皆が…！
俺を犠牲にしてでも皆を！…
オイ

言っただろう
俺達がお前の手足になると

それが〝今〟なんじゃない？
お前一人で戦わせねぇよ

でも

落ちこぼれの俺とエリートの弟…ただでさえ差があるのに
服従の呪文で体が悲鳴を上げている…
勝算なんて無いに等しい

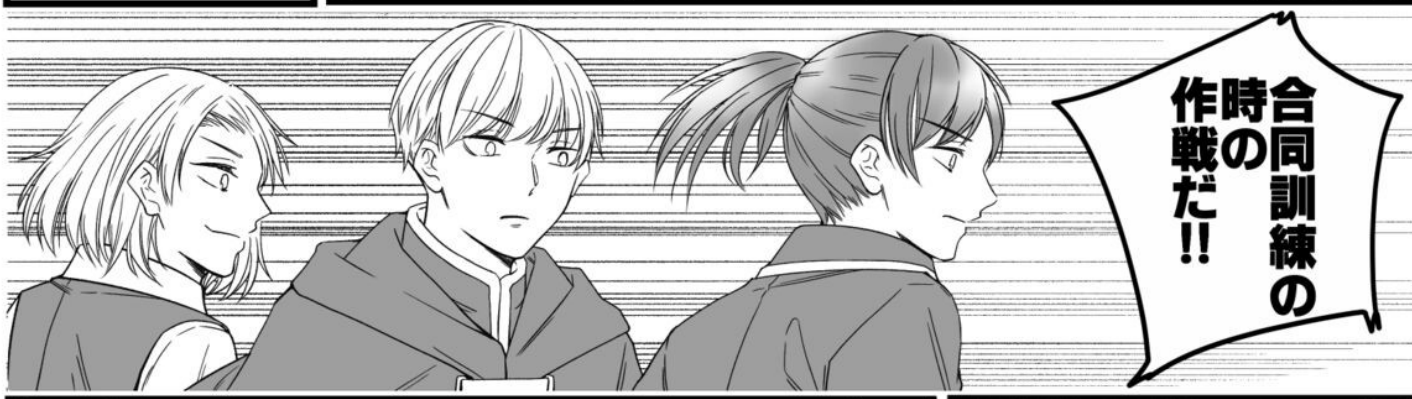
お前ら…

今
立ち向かわ
なきゃ
勝つことは
一生
できない!!

お前ら!
全力で
レオンハルトを
叩きのめすぞ!!
了解!!

おしおきが
必要だね
兄様

ゴゴゴゴ…
ギルバート
どうする
ゴゴ…
いつも通り
指示をくれ
レオンハルトの火力と
真っ向勝負しても
負ける…
意表をつく
作戦は…!…

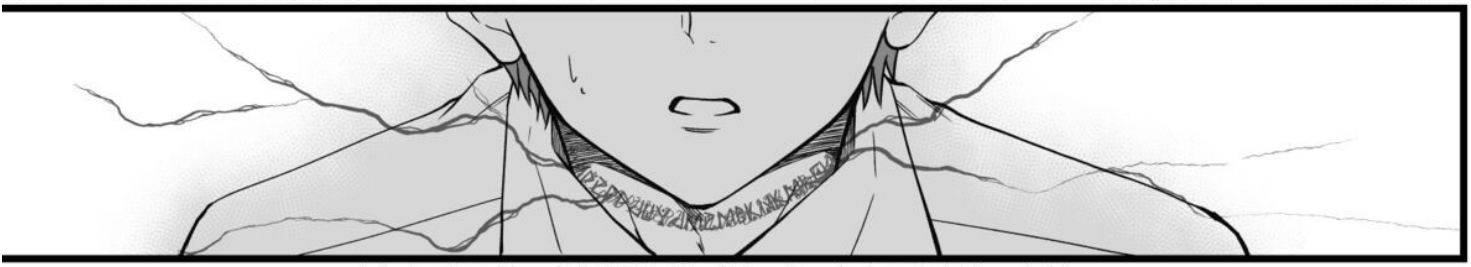

合同訓練の
時の
作戦だ!!

ヒスイ!
わかった
ノエ!
うん
キース!
俺らで
前線張るぞ!
へばんなよ
ギル!

ノエが強化魔法をかけ続ける間に俺達が護る
そして最後にヒスイがー…
とにかく今はレオンハルトを引き付けなければ
キース同時に行くぞ！
ビクともしねーのかよ！
怯むな！攻撃を続けるんだ！
ズキンッ
やっぱり攻撃すると服従の呪文が反応するか…
ズキッ
けれどレオンハルトに勝つ為ならいくらでも我慢してやる!!
水の精霊よ！
水の精霊よ！
風の精霊よ！

—ああ
鬱陶しい
ノエ!!
あっ
キース!!
しっかりしろ!!
おい!!
ジャリ…
遊びは終わりだよ
兄様

さあ
帰ろう？
僕と一緒に



もう一人
忘れてんぞ

そうこっちはおとり
本命は!!…

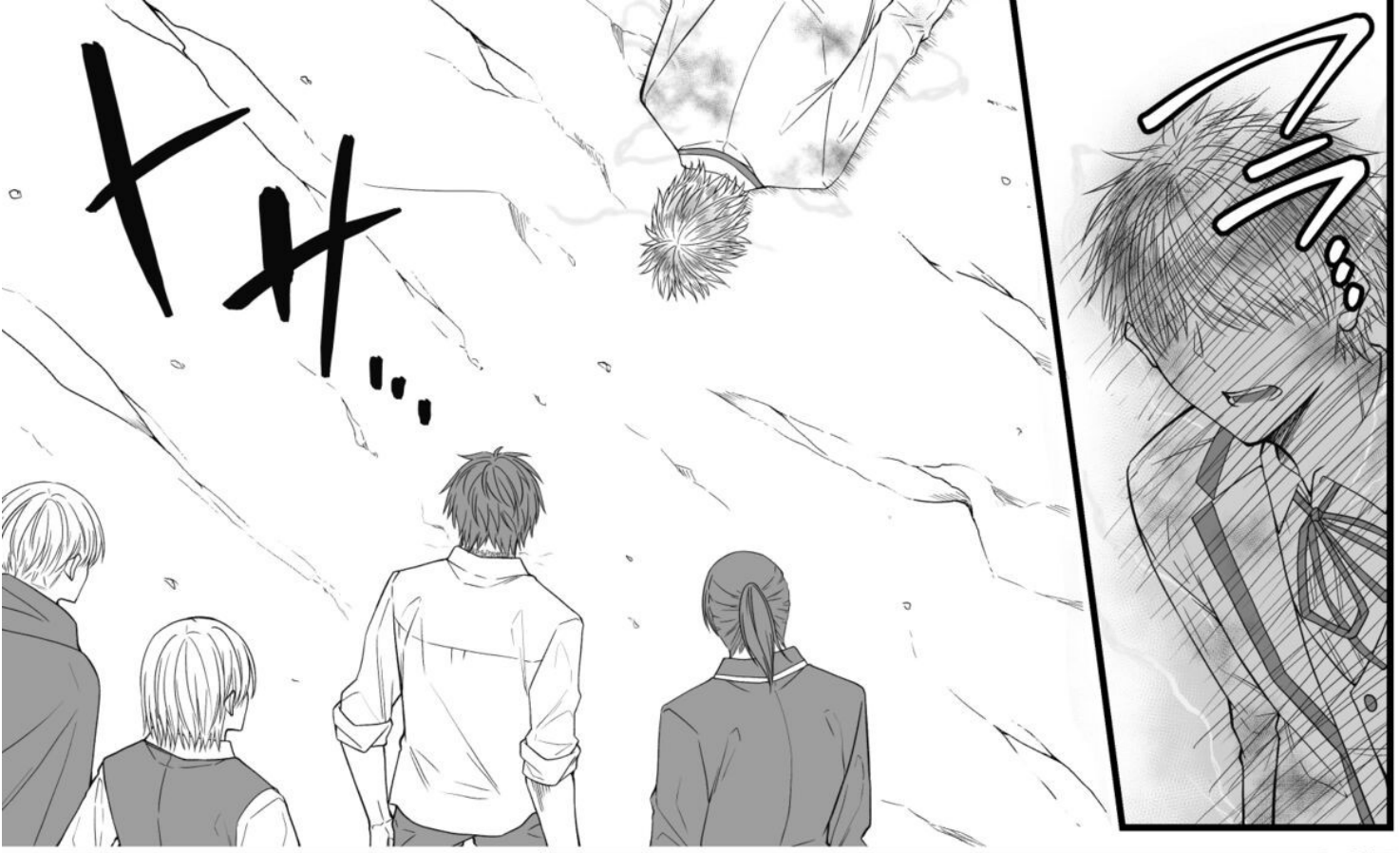
ブオッ
ズシャア
ッアア
やったか!?

ヨロ…
ガッ
チッ
気絶してないのか！
次来るぞ！

どうして…
どうして邪魔をする…
僕は兄様と…
一緒にいたいだけなのに…

何あの魔力…!?
あんなの見たことない…!!
このままじゃ皆やられてしまう!!
雷の精霊よ！
かの金属に光を纏え！
レオンハルトを倒すには―…
これだ!!
キース借りるぞ!!
ばっ

雷を纏った金属は
天空の雷との道をつくり
落雷を呼び寄せる!!


ドサ…

うおおおっ
すげーじゃんギル!!
よく倒した!!
俺が…倒したのか…?
"あの"レオンハルトを――…

ギルッ!!
術者が弱ってる今なら服従の呪文解けると思う!!
本当か…!?
シャリ…
早く解いて逃げよう!!

行かないで…
兄さまっ…

俺は…
俺は――…？

魔術の素養が高い弟と落ちこぼれの兄の話

第六話

ずっと

レオンハルトに対する気持ちが分からなかった

閉じ込められて愛されていた時は

満たされていたけど空しくて

立ち向かった今は

清々すると思ったのに

こんなにも苦しくて

俺はレオンハルトにあんな苦しい顔をさせたいわけじゃないんだ

俺が望んでいるのは――…

兄さまっ！

――ああそうか

俺は――…

早く服従の呪文を――…
…ちょっと待ってくれないか？
レオンハルトと話をつけてくる
何馬鹿な事言っている！
ガッ
あんな奴見捨てるべきだ!!
ありがとなヒスイ
でも決めたから
お前は人が良すぎる…！
ギュッ
ジャリ…
兄さまぁっ…

ナグッ
えっ
兄様っ
待って！
ゴッ
やめて！
ドゴッ
止まって!!
このまま
じゃっ
服従の呪文で
兄様が傷つく!!

こんなんで俺を縛れると思ったら

大間違いなんだよ!!

俺は何度でも立ち向かってやるからな!!

じゃあ

どうしたら…

どうしたら僕のそばに居てくれるの…?

そんなの…

服従(こんなもの)の呪文なんかなくたって
俺はお前のそばにいるよ
…嘘だ
嘘じゃねぇよ
だって逃げたくせにっ！
僕をっ
避け続けていたくせにっ!!
それは…
自分の気持ちが分からなかったから―…
いやこれは言い訳だな

俺さ
お前に嫉妬してたんだ
え…!?

才能あるお前と落ちこぼれの俺…
勝手に比較して嫉妬してそんな自分が情けなくて避けて続けていた…

だからお前に求められた時嬉しかったんだ
俺の歪んだ部分が満たされたような気がした
—でもそれは違う
ガッ

俺は
男として
お前に
認められたいんだ
護られるだけ
じゃない
一緒に
悩んで迷って
笑いあえる
ような
そんな
支えあえる仲で
ありたい
愛して
いるよ
レオン
ハルト

こんな
情けない
兄貴だけど
一緒に
いてくれるか？

ずっと
一緒にいてっ…

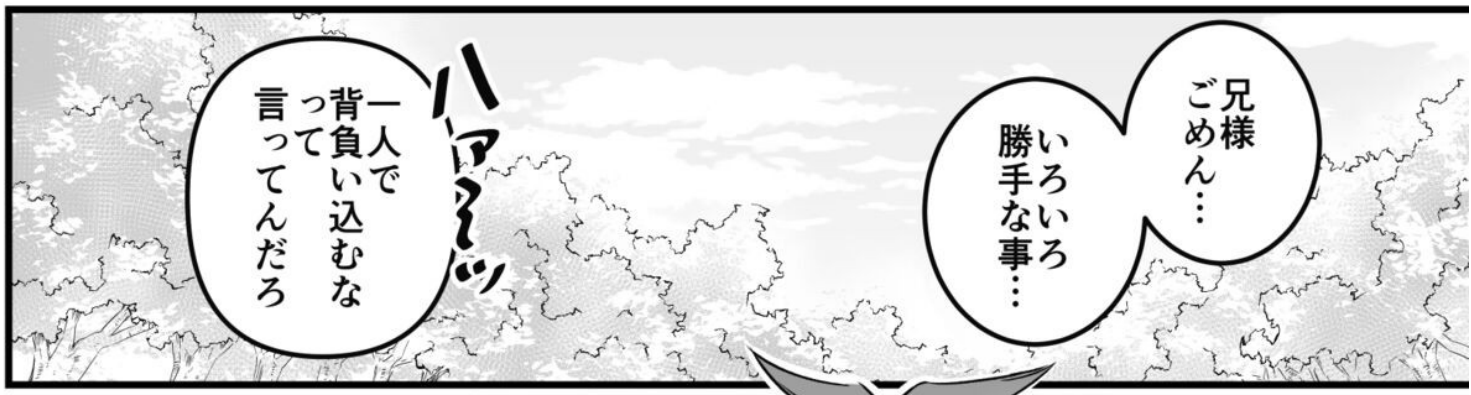
死ぬまで
ずっと――

—お前ら
いろいろと迷惑かけてすまなかったな
俺達もう大丈夫だから

あそこまで見せつけられたらなあ
何かあったら呼べすぐ駆けつける
落ち着いたらまた遊びに来るね

結婚式には呼んでくれよ〜
キースてめえ!!
必ず呼びます
いや無理だからな!?

さて
じゃーなー
ガラガラ…
やることはいっぱいあるな
屋敷のこと
領地のこと
――…


兄様ごめん…
いろいろ勝手な事…
ハーァ～ッ
一人で背負い込むなって言ってんだろ

”俺達でこの領地をより良くするんだからな！“
うんっ

兄様

もう僕達にはいらないものだから
レオンハルト呪文を…

だって傍にいてくれるんでしょう？
―ああ
傍にいるよ
死ぬまでずっと―…

兄様あああっ
ぎゅっ
ここにいるから
兄様あああああっ

ギルバートの母

故人。
ギルバート9歳の時に
亡くなる。

父

レッドグレイヴ家の
前当主。
諸事情により隠居。

魔術の素養が高い弟と落ちこぼれの兄

第七話

あれから
兄様は
家に残り
領主(ぼく)の
補佐として
侯爵家を
支えてくれる
ことになった

そんな中
困っていることが
一つだけある
それは―…
やっほー

廃嫡されたからって
最初は渋っていたけれど
仕事をする姿はとても楽しそうだ
僕と一緒に歩む道を選んでくれて本当に良かった

兄様の友人が
よく尋ねに来る
ということだ

遊びに来たぜ
ギルバート！

特に
こいつ

こんおみやげ

いつもありがとな！

それ以上
兄様に
近づくな

まあ彼らも
仕事のついでに
来ていることは
理解している

ハァ…

ノエ・ウィザーズは
一族で研究した
魔術道具を

ヒスイは
故郷の特殊な
薬草や工芸品を

キース・
エクルストンは
それら商品を
商会へ卸す為に

彼らの
おかげも
あって

僕らの領地は
王都と並ぶ
商業都市として
発展しつつある

そして
その立役者の
兄様は

レッドグレイヴ家を
裏から牛耳る
黒幕だと
人々から
恐れられている

まあ
噂流したの
僕だけど
兄様の
素晴らしさに
恐れ戦くが
いい

ゴーン
ゴーン
はっ!!
もう
遅い時間
なので
皆様
お帰り
ください
えー…
早くない?
泊まろ
せろ
ぐいぐい

なあ
レオンハルト…
この部屋
母様の…
侯爵夫人の
部屋だよな？
俺が
使うのは…
周りの目が…
何を今更
屋敷の皆
僕達の関係に
気づいているし

ズーン…
皆
気づいて
いるのか…
それに

この部屋を
使っていいのは
兄様だけだから

—嬉しいよ
たとえ
今だけだと
しても

うん！

え？
さあ
そろそろ
寝るぞ！
明日も
仕事は
山積みだし！

ああ
幸せだな
ひっ!?
お前っ！
昨日も
ヤっただろ!!
ダメ…？
そんな
子犬みたいな
目しても
駄目だ!!

魔術の素養が高い弟と落ちこぼれの兄

第八話

あれから
数か月が
経ち―…

俺は今
領主（レオンハルト）の補佐として
働いている

父様は
体調が優れず
隠居した
そうだ

会って
くれるか
わからない
けど

落ち着いたら
会いに行って
みたいと思う

…ん？

ヒラ…

ライラックの
花びらか…

もうそんな
季節なんだね

兄様
ぐいっ
僕
兄様が
いてくれて
幸せだよ
…俺もだ
コンコン
旦那様
フォード伯爵が
ご到着されました
分かった！
ばっ
チッ

久しぶりだね！
ギルバートにレオンハルト！

お久しぶりですフォード卿
敬語なんていらないよ
前みたいにおじさんって呼んでくれ

フォード伯爵は父様の弟、つまりは俺たちの叔父さんだ
フォード伯爵家に婿入りして領地を治めている

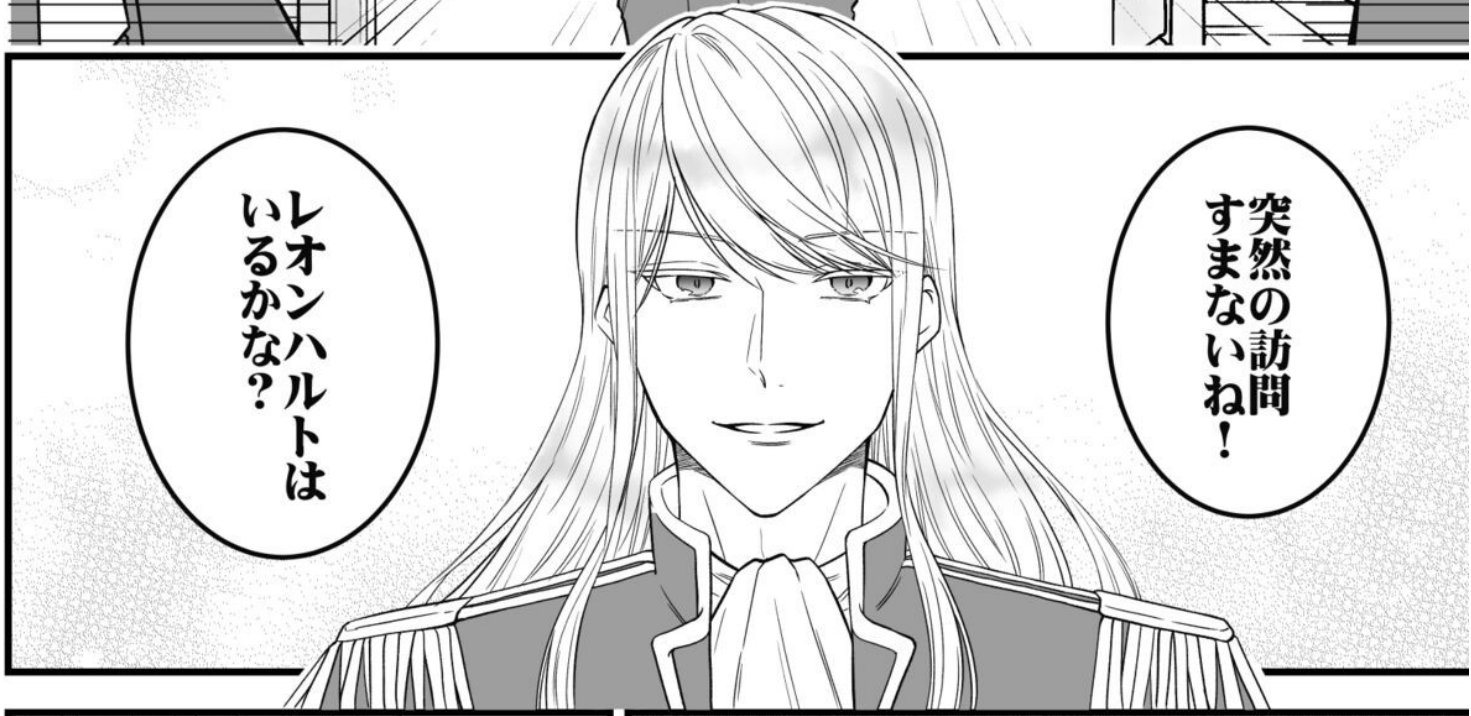
そうだこの子も紹介しないといけないね

私の四男
アルバートだ
初めまして
アルバート・
フォード
と申します
プラチナ
ブロンドに
紫の瞳…
レッド
グレイヴ家の
血が濃く
表れている…

この子の
魔術の素養は
相当高い
だろう…
ギルバートだ
よろしくな
よろしく
お願い
いたします
ギルバート
様

はは
様なんて
堅苦しいよ
兄と呼んでも―…
ギルバート様
ギルバート様と
呼べ
心が
狭すぎるぞ
レオンハルト…
(ギ)
兄様と
呼
僕
それで
叔父様は何で
この子も連れて
きたんだ？
それは…

やあやあ
諸君！


突然の訪問
すまないね！
レオンハルトは
いるかな？

白銀の髪に
赤い瞳
王家の色を
纏った
この方は―…

何で
こんなところに!?
ばっ
約束なんて
してなかった
よな!?

ハーヴィー・ウィル・
アウスソニア王太子殿下!!

ああ全員
面を上げて
いいぞ

来訪の連絡は
受けていない
のですが…

そもそも
護衛は？

転送魔法
使って
一人で来た！

バァ

アアアン

王太子の
自覚
持って
下さい

そうか…
レオンハルトと
王太子殿下は
ご学友だったな…

で？
何しに
来たんです？

このような
吉報
私が直々に
報告せねばと
思ってな

喜べ！
我が妹の婚約者として
レッドグレイヴ侯爵が
選ばれたぞ!!

は…!?

レオンハルトが
婚約―…？

昨今の
レッドグレイヴ領の
隆盛には目を見張る
ものがある

陛下はレッドグレイヴ家と
縁を結び、国家の安定を
盤石にしたいとの考えだ

そんな
打診受けて
いませんが!?

驚かせようと
思ってな

貴様に秘密で
根回しするのは
大変だったん
だぞ？

正式な手続きは一週間後
王城にて執り行う！
では待っているぞ！
チッ
最っ悪だ！
叔父様それにアルバート
急ぎ対処しないと！
僕が転送魔法使うので一緒に王都へ！

レオンハルト…
兄様
大丈夫
僕が絶対どうにかするから

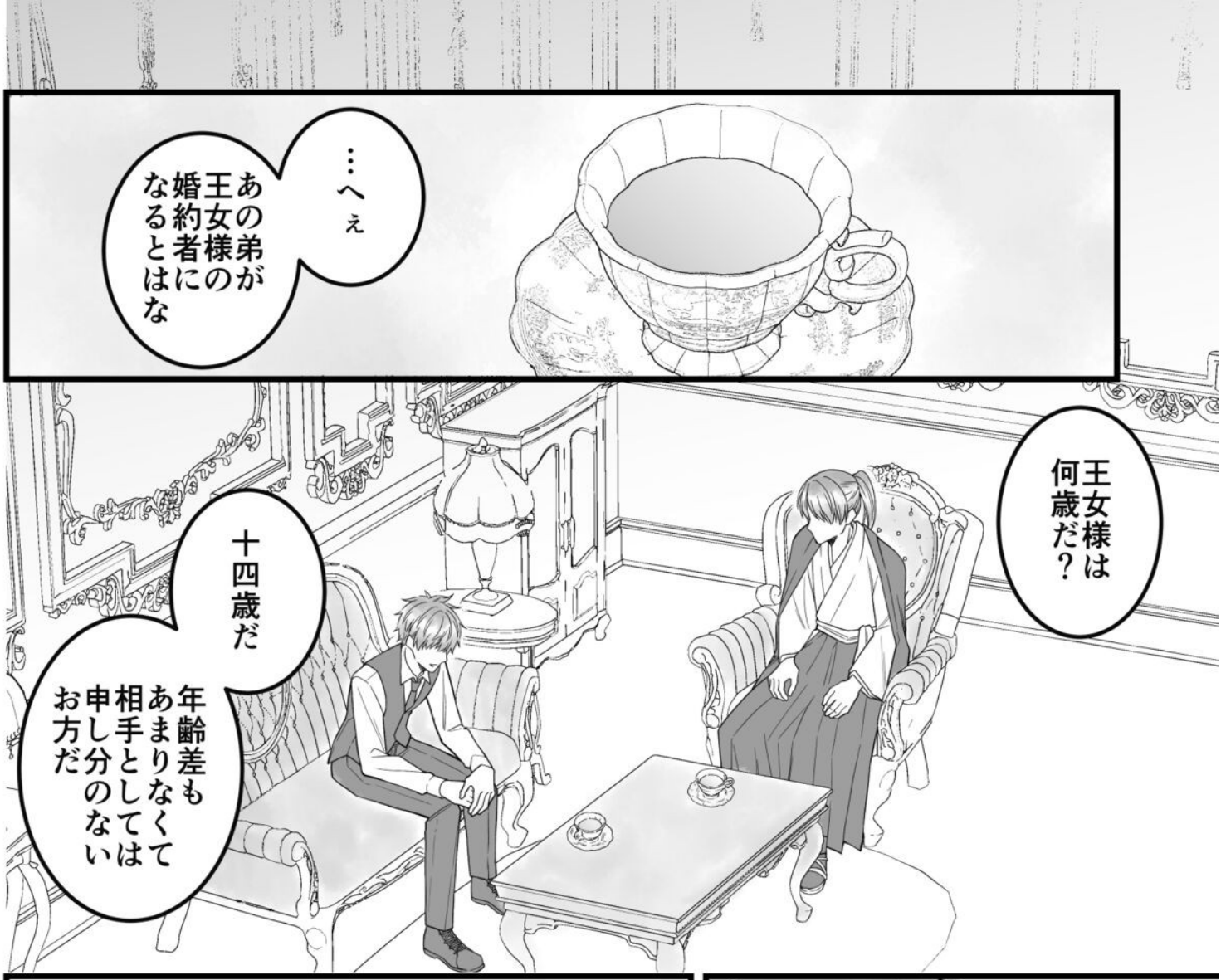
レオンハルトの
婚約…

いつか
この日が来ると
覚悟していた

でも
こんなにも
早く

こんな
最悪な形で
来るなんて

あれから
数日が経った
レオンハルトは
まだ
帰ってこない
俺は代理で
領主の仕事を
こなしていた
コン
コン
！
浮かない
顔を
しているな
ヒスイ…
何か
あったか？
相談に
乗るぞ
ありがとう
…


…へぇ
あの弟が王女様の婚約者になるとはな
王女様は何歳だ？
十四歳だ
年齢差もあまりなくて相手としては申し分のないお方だ

…ギルバートはそれでいいのか

ふざけんなよ何が勅命だ…
レオンハルトは俺のだ
誰にも渡したくない…！

いいわけないだろ

傍にいるって
約束したのに…！

…でも
どうにもならない
ことも分かってる

王の勅命に
逆らえば
死罪だ

それにさ
ずっと
思っていた
んだ

こんな
落ちこぼれの
俺なんかに
レオンハルトを
縛り付けて
いいのかって

カチャ…

王女殿下なら
優秀なあいつに
お似合いだ

ちゃんと
兄として
お祝いして
やらなくちゃな

しんどく
なったら
俺の故郷に
来い

…いつも
ありがとな
ヒスイ

あの宣告から
明日で一週間
夜が明けたら
レオンハルトは
王女殿下のものに
なる
はぁ…
やっと
戻って
これた…
ごめんね
一週間も
かかっちゃって
レオンハルト

兄様…？
明日からは兄に戻るから
今日まではお前の一番でいさせて
抱いてくれレオンハルト

…今日で
最後
だから

レオン
ハルト

ゆっ
ビクッ
今まで一度も…！
ぐちっ
兄様!?
ごめん
もうっ…
ちゅ
ビクッ
んふっ♡
ちゅぱ
ちゅ
ビクッ
はーい♡
ちゅ

これ以上はおあずけな？
ひゃい…
出すなら
俺のナカに出してくれ…♡

兄様
いきなりはっ…
だいじょーぶ
ほぐしたからっ…
んあぁっ♡
…感じる

レオンハルトの
あたたかみ
俺のナカに
たしかにある
今日までは
兄様…？

俺がお前の一番だ
えへへ…
ビクッ
ビクッ
あぁっ♡
これ以上耐えられない
覚悟してよね兄様

だから

幸せになれよ
レオンハルト
兄様
兄様起きて
ん…？
早く準備しないと遅れちゃう

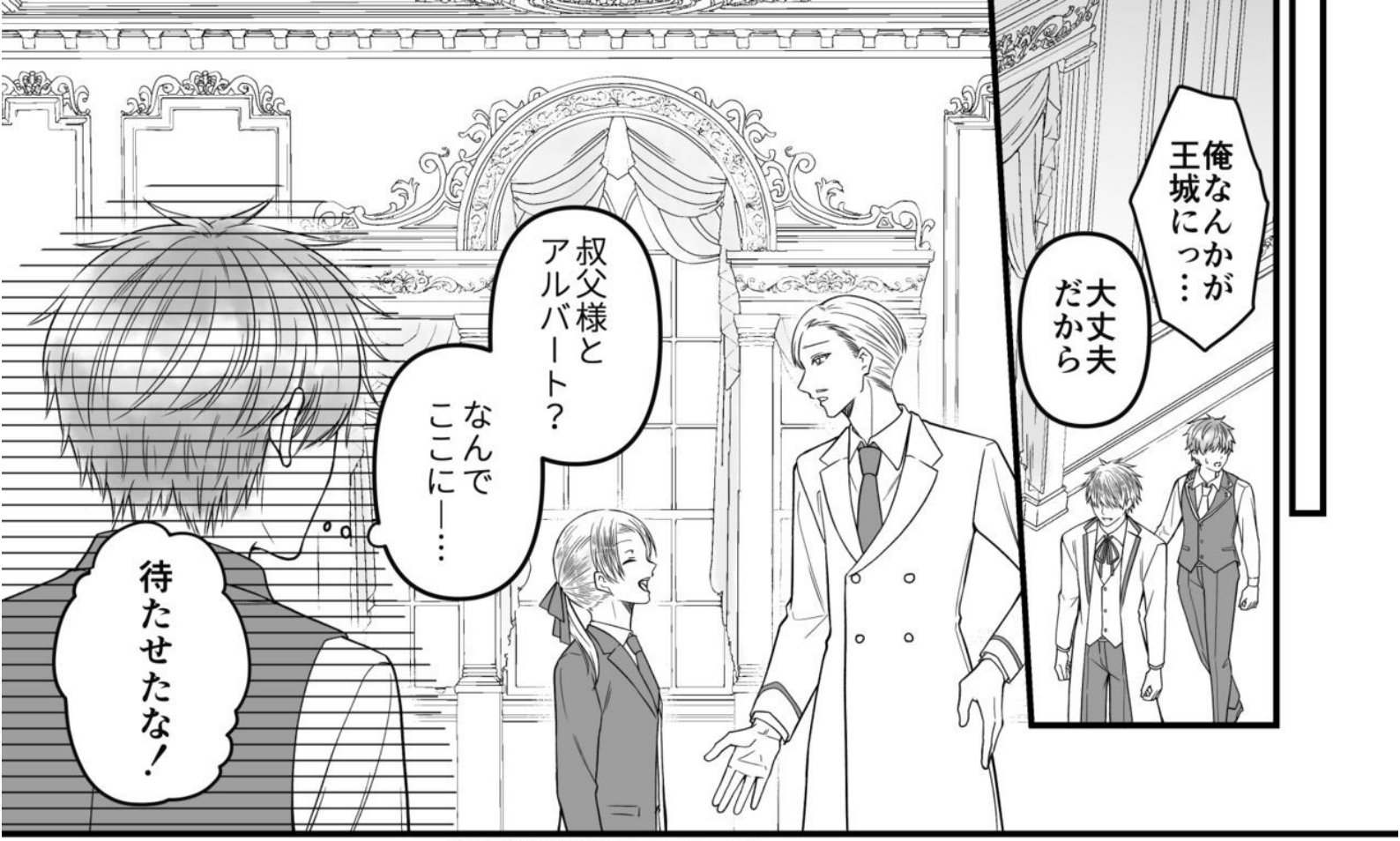
準備…
ああそうか
今日が
王女様との
婚約の日か…
笑顔で
見送って
やるんだ
俺なんかに
遠慮しないで
いいように
ああクソ
声が震える
兄に戻るって
決めただろ
笑え
笑え
笑えっ…
王女様と
仲良くな…

ちゅっ

何すんだよ…
兄様があまりにもかわいくってつい

それで昨日様子がおかしかったんだね
僕がどうにかするって言ったのに

さあ兄様も来て
絶対大丈夫だから


俺なんかが王城にっ…
大丈夫だから
叔父様とアルバート？
なんでここにー…
待たせたな！

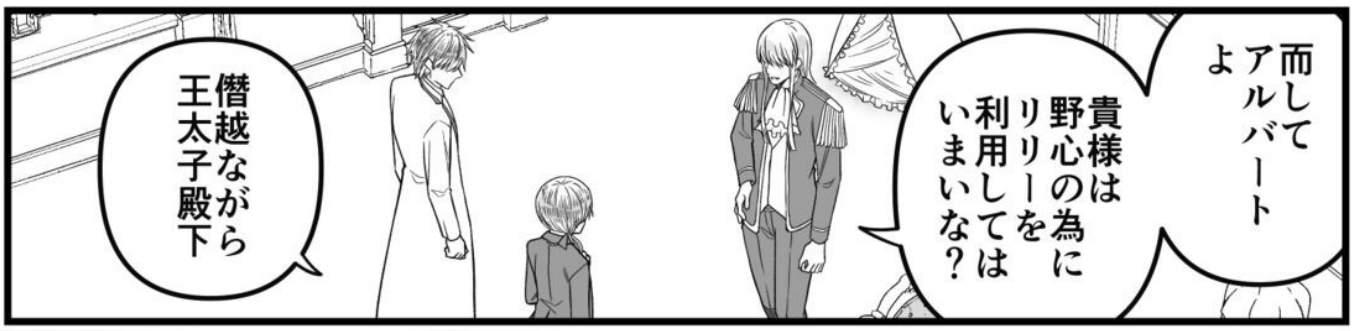
手続きを進めようではないか
だめだ耐えろ
ハーヴィー王太子殿下とリリー王女殿下…
笑って見送るって決めたじゃないか
この婚約ですがー…

侯爵家
次期当主
アルバート・
レッドグレイヴが
お受けします
へ…？

おや？
レオンハルト
ではないのかい？
私の
母親は
下女です
王族の
高貴な血と
交わる
わけには
いきません

その点
アルバートは
伯爵家と侯爵家の
血を引きます
養子に
迎え入れた
今
王女殿下に
釣り合う人物は
彼以外に
いないでしょう
そうなる
と…

不要な後継者争いを避けるために
貴様は今後子を持てなくなるが…
それでもいいのかい？
承知の上です


而してアルバートよ
貴様は野心の為にリリーを利用してはいまいな？
僭越ながら王太子殿下

王女殿下にお目通り叶ったのはお茶会の時
その朗らかな笑顔に一目で恋に落ちました
しかし今の身分では釣り合わない…
ですので侯爵家の養子になることを決意しました
全ては愛する王女殿下の為に

ふむ
私は「いつの」レッドグレイヴ侯爵とは言わなかったからな

ハーヴィー・ウィル・アウスソニアの名において

リリー・ホワイト・アウスソニアと

アルバート・レッドグレイヴの婚約を認めよう！

アルバート！

リリー様っ

えぇ…？
俺何も知らなかったんだけど…？

一週間前兄様にも養子のことを伝えるつもりだったんだ

殿下がめちゃくちゃにしちゃったけど

それにね兄様

僕の幸せは
兄様がいないと
成り立たないから

兄様が僕の側から離れるって言うのなら僕は兄様に服従の呪文をまたかけて今度は逃げられない棟に幽閉して僕だけしか見ないように調教して
ゴゴゴゴ
ゴゴ
ゴゴゴッ
冗談だよな…？

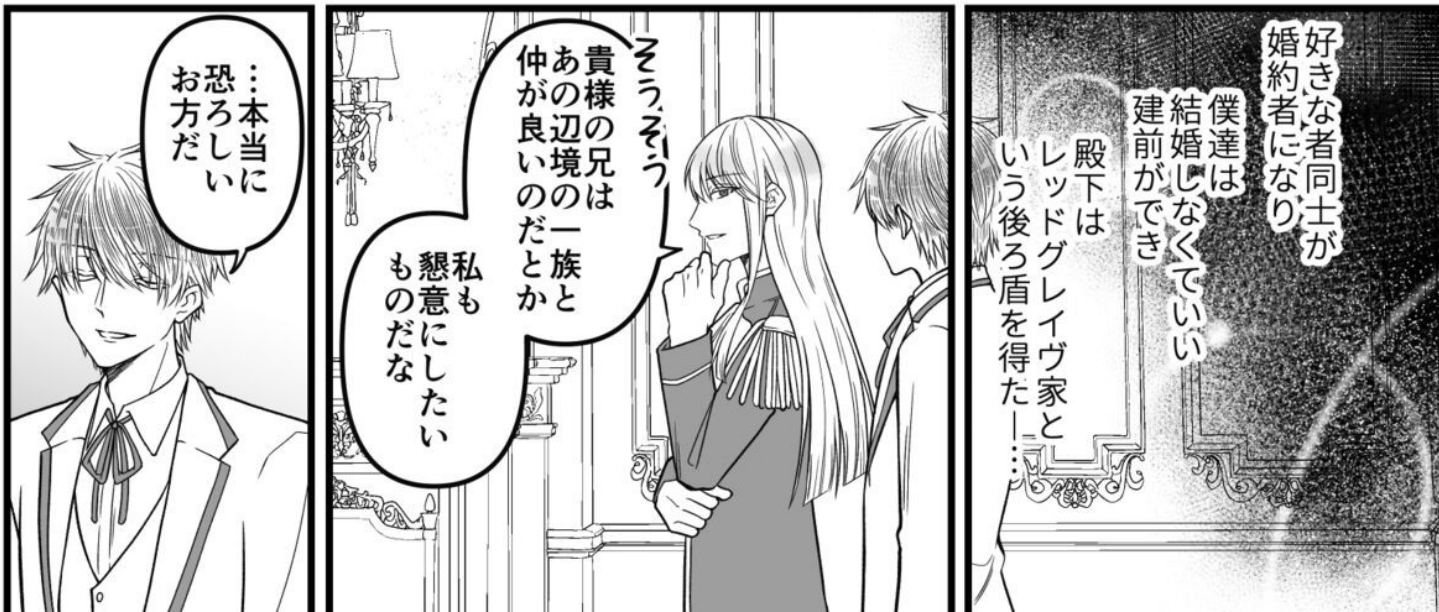
ああっ

パポッ
手続きも完了した！
軽食を用意したから皆で祝おうではないか！

兄様っ
早く行こう？

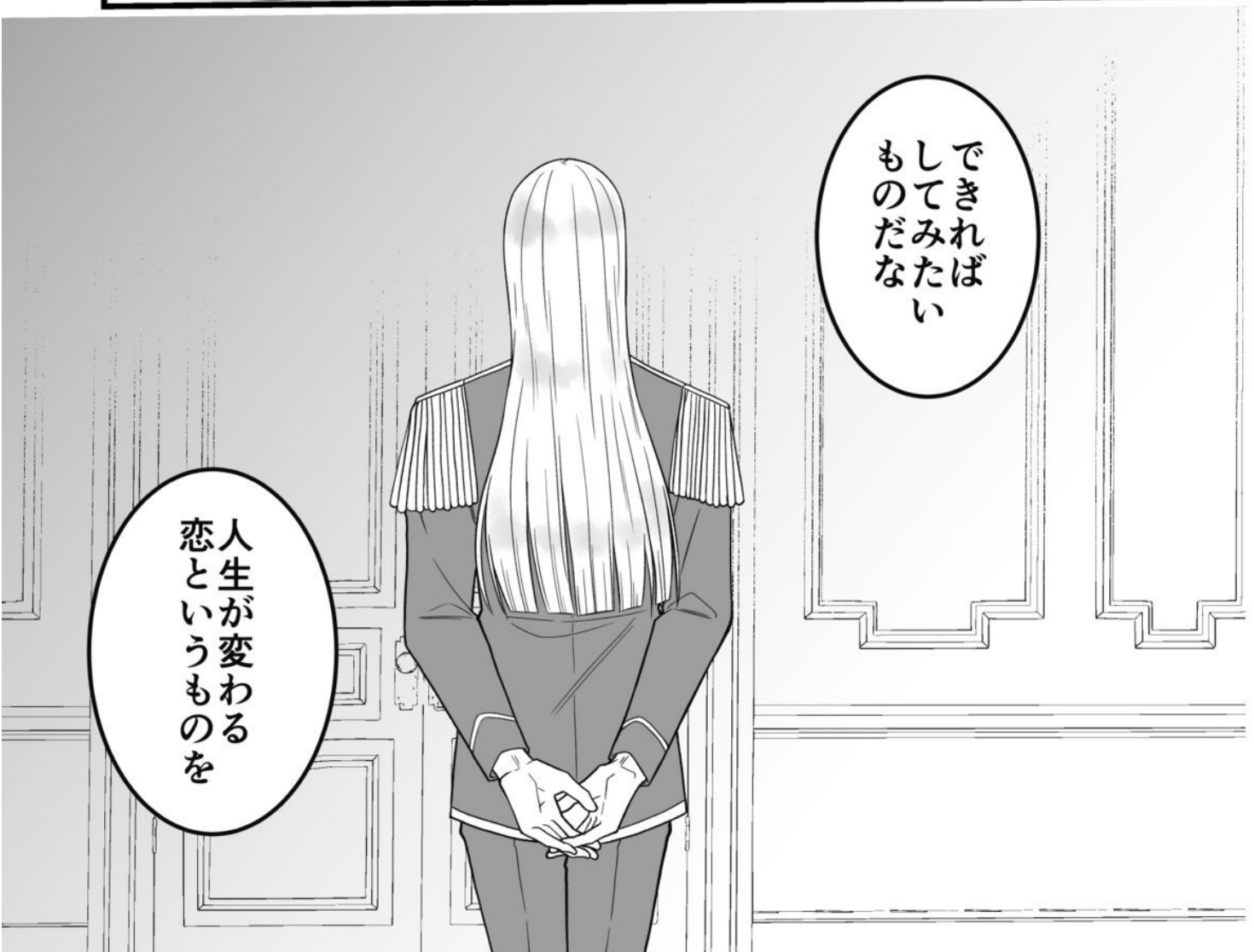
大団円って感じかな？
殿下が余計な事しなければ丸く収まったのですが
養子の手続きに有力貴族への挨拶に大変だったんですよ
ははは
学園では澄ましていた貴様が焦る様子は面白かったぞ！

けれどこれで皆が幸せになっただろう？


好きな者同士が婚約者になり
僕達は結婚しなくていい建前ができ
殿下はレッドグレイヴ家という後ろ盾を得た…
そう、そう
貴様の兄はあの辺境の一族と仲が良いのだとか
私も懇意にしたいものだな
…本当に恐ろしいお方だ

必ず手配
致しましょう
――…
恐ろしい
か…
私は貴様の
変わりようが
恐ろしいがな

私も
恋を知れば
変わるの
だろうか…


できれば
してみたい
ものだな
人生が変わる
恋というものを

ハーヴィー・ウィル・アウスソニア
Harvey Will Aucsonia

アウスソニア王国の王太子。
レオンハルトとは学園の時に生徒会を通じて
友人になった。
魔力が豊富で頭もよく、王太子として期待されているが
放浪癖があり護衛はいつも悩まされている。

兄様のお母様はとても心が優しい人だった

あの男(ちちおや)と結婚しなければもっと幸せな人生を送れただろう

お母様の面影を兄様に感じるたび僕は恐ろしくなる

あの男(ちちおや)と同じことをしているのではないかと

兄様の幸せを奪っているのではないのかと――…

あはは
でさ～
イラ
イラ
そう
なのか
貴様
いつまで
いるんだ

すまない
急用を
思い出した
今日は
これにて
そっち
窓だぞ？

このっ！
ﾊﾞﾀﾞｯ
まぁまぁ

ふっ
友人との再開に
水を差すとは
狭量だな

やあやあ!
久しいな諸君!!
おや?
ヒスイはいないのかい?
先ほど帰りましたが…
というか今回は何です?
声がした気がしたが
ぐいっ
我が妹とアルバートの婚約を発表するためお茶会を開くことにした!
二人とも是非参加してほしい!
えぇえっ!?
でも俺デビュタントしてないし…
ポンッ
これは王命だ♡
ではよろしく!
ははは!
はぁ…行くしかないようだね…

お茶会の日
王城……
ザワ
ザワ
場違い感がすごいな…

あの方レッドグレイヴ家の…
あの噂の…
あの噂って何だ!?
失礼
レッドグレイヴ家のギルバート様ですか？
あっ
はい…
ザッ
私はハンズ伯爵家の…
貴様

まずは当主の私を通すべきではないか？
失礼しました!!

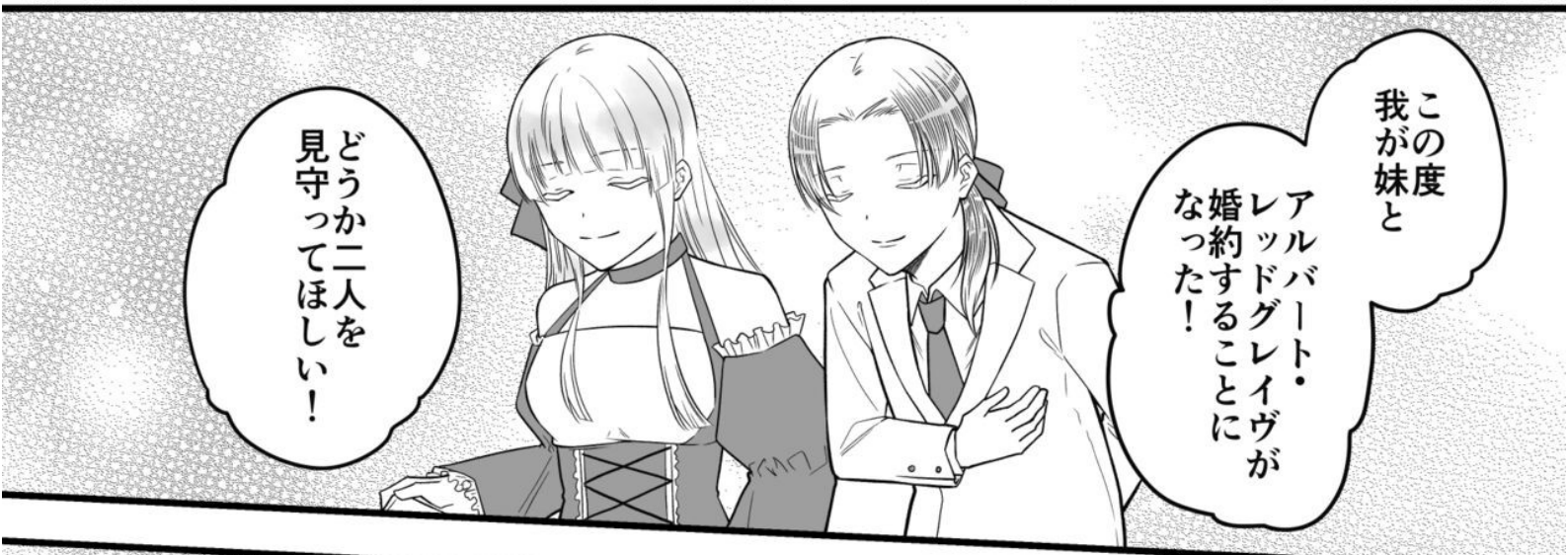
兄様大丈夫だった？
レオンハルト…

父様みたいな立派な侯爵になったな…
ジーン…
やめて本当誉め言葉じゃないから

王太子殿下
王女殿下のご到着です

全く油断も隙もない…

やあやあ
ごきげんよう
諸君！


この度
我が妹と
アルバート・
レッドグレイヴが
婚約することに
なった！
どうか二人を
見守ってほしい！

パチ
パチ
あっ

無事発表も終わりか
二人が幸せそうで良かったよ

…兄様は今…幸せ？
…え？

兄様から次期当主という立場を奪って
子供まで望めない状況にしてしまった…
ユッ
兄様の幸せを奪っているのかもしれないと思うと
恐ろしくて仕方ないんだ

俺さ
レオンハルトが来るまでどこか人生諦めていたんだ
才能がないから家族に捨てられたって
幼い頃に描いた未来も諦めないといけないって
でもレオンハルトが来てから
全てが変わった
領地の為に働くって夢も
愛がほしいっていう願いも
全部ぜんぶレオンハルトが叶えてくれた

俺
幸せだよ
レオンハルトと
一緒にいる
今が一番幸せ
…僕も
今が一番
幸せ
なら何も
問題ないな

城の貴賓室でこんなことやっていいのか…？
このくらいいいでしょ
殿下が用意した部屋なんだから

今日は兄様の気持ち
知れて嬉しかったから

れろっ
あっ!!♡
ビクン
たっぷり可愛がってあげるね♡

じゅぽっ
んきたなっ…
じゅぽっ
あしらび
かわいい
かわいい
ぼくの
にいさま
これからも
ずっと
いっしょ
だよ♡
まって、
あ

んあああ♡
ビクッ
ビクッ
チュー
兄様
好き
大好き
へおっ♡
へおっ♡
くっ!

おれも…
すき…
兄様っ
レオン
ハルトっ…
うんっ
一緒に

なあ
レオン
ハルト
なあに？
兄様

アルバート達が大きくなって
領地を任せられるようになったら
旅に出ないか？
外国にはすごい技術がいっぱいあると思うんだ
俺はそれを見つけてもっと領地をよりよくしたい
それはとても楽しそうだ

一度は
諦めた未来
だけど今は
その未来を
歩んでいる

これからも
この道を
歩んでいこうと
思う
兄様

愛する弟と
ともに

Our journeys will continue...

あとがき

今回は「魔術の素養が高い弟と落ちこぼれの兄」を
手に取っていただき誠にありがとうございます。
作者のもうのです。

この話はもともと最初の一話だけで終わらせるつもりでした。
しかし続きを見たいとのお声をいただきましたので、
続きを描くことにしました。
正直ここまで長くなるとは思っていなかったです。
ここまで描けたのも、お声をかけてくださった方々の
おかげだと思っています。本当にありがとうございます。

かなり昔から描いており、最初と最後では絵がだいぶ違っています。
そこも楽しんでいただければと思います。
お話はここでいったん終わりですが、
レオンハルトとギルバートの旅はこれからも続きますので
暖かく見守っていただけると嬉しいです。

このお話以外にも様々な話をピクシブやツイッターにて
アップしていますので遊びに来ていただけると嬉しいです。
ぜひぜひよろしくお願いいたします。

発行日：2023/04/02
発行者：もうの
連絡先：mouno0051@gmail.com
ツイッター：@mooooouno_n
印刷：株式会社栄光 様